

事業名	戦没者慰霊費			調書番号	20
細事業名	県下戦没者慰霊祭開催事業費	財務コード	169802		
担当部課室	福祉保健 部	国保援護 課	援護恩給 担当 (内線)	3118	

事業の概要

実施期間	始期 S32 年度 ~ 終期 年度						
実施主体	県(直営)						
目的	<table border="1"> <tr> <th>だれ(何)を対象に</th> <th>その対象をどのような状態にして</th> <th>結果、何に結びつけるのか</th> </tr> <tr> <td>戦没者遺族 県民一般</td> <td>遺族代表の参加を得て慰霊祭を開催することにより、戦没者の慰霊と遺族の慰藉を行い、平和の尊さを県民に周知している。</td> <td>風化しがちな戦争体験を継承し、戦争の悲惨さと平和の尊さについての県民意識の向上。</td> </tr> </table>	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか	戦没者遺族 県民一般	遺族代表の参加を得て慰霊祭を開催することにより、戦没者の慰霊と遺族の慰藉を行い、平和の尊さを県民に周知している。	風化しがちな戦争体験を継承し、戦争の悲惨さと平和の尊さについての県民意識の向上。
だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか					
戦没者遺族 県民一般	遺族代表の参加を得て慰霊祭を開催することにより、戦没者の慰霊と遺族の慰藉を行い、平和の尊さを県民に周知している。	風化しがちな戦争体験を継承し、戦争の悲惨さと平和の尊さについての県民意識の向上。					
内容	県下戦没者の慰霊と遺族の慰藉のため、昭和32年から知事を祭主として毎年開催している。 県下戦没者数:25,050柱 会場:コラー文化ホール大ホール 参列者:遺族代表1,000名、来賓塔200名 次第:1.はじめのこたば 2.国歌斉唱 3.黙とう 4.祭文奏上 5.慰霊のこたば 6.献花 7.献茶 8.献吟 9.音楽奏上 10.お礼のこたば 11.おわりのこたば						

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
活動指標	遺族出席者数	目標	1,300.0	1,100.0	1,100.0	1,100.0	1,000.0	1,000.0	1,000.0
		実績(見込)	1,124.0	1,055.0	1,014.0	1,020.0	960.0	908.0	
		達成率	86.5	95.9	92.2	92.7	96.0	90.8	
		達成区分	b	b	b	b	b	b	
成果指標		目標							
		実績(見込)							
		達成率							
		達成区分							
決算(予算) 単位:千円		1,139	1,116	1,081	1,014	998	1,228	1,161	

事業の評価(平成28年度の業績評価)

活動指標	b	評価	毎年度欠かさず慰霊祭という厳粛な式典を継続することによって、平成28年度においても戦没者の慰霊と遺族の慰藉が図られた。また、報道等を通じて一般県民にも平和の尊さが改めて伝わり、意図した成果をほぼ上げている。
成果指標	b		

「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

見直しの必要性(平成30年度に向けた改善等の考え方)

関係与の必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い <input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる <input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能 <input type="checkbox"/> 成果向上が可能 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	事業の性質上、限られた時間の中で、一定の形式的な行為を着実に実施することが重要であり、内容の見直し等による成果向上の余地は限定的である。
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある <input type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他 ()
その他	説明	
見直しの必要性	有	事業対象となる遺族の高齢化による参加者数の減少に伴い、予算規模の縮小を図る。

見直しの方向(平成30年度当初予算等での対応状況)

縮小	説明	事業対象となる遺族の高齢化等による参加者数の減少を見込み、記念品である知事供物代の数量について見直しを行う。
----	----	--

見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。